

笹川保健財団 地域啓発活動助成

(西暦) 2020 年 2 月 11 日

公益財団法人 笹川保健財団
会長 喜 多 悦 子 殿

2019 年度地域啓発活動助成

活 動 報 告 書

標記について、下記の通り活動報告書を添付し提出いたします。

記

活動課題

老いても、病んでも、住み慣れた処で暮らすまちづくりパートⅡ

活動団体名： 一般社団法人 緑の杜

活動者（助成申請者）名： 太田 緑

活動テーマ

老いても、病んでも、住み慣れた処で暮らすまちづくり パートⅡ

太田緑

活動報告書

1. 活動の目的

- ① 住み慣れた地域で最期まで暮らすための市民への啓発活動を行う
- ② 誰もがいつでも相談できる場所や居場所の開設
- ③ 地域の医療介護職が地域住民と共に地域づくりを語る場、共に学ぶ場が地域で

果たす役割の検証

2. 活動の内容・実施経過

・毎月多職種で意見交換をおこない、『ナーシングカフェほうぶ』の継続と開設に仕方を話し合った。

・地域の医療介護職と共に地域づくりを語り場で語り合い、その結果、市の保健センターが主催するまちなか相談（健康相談）とコラボして、くらしの保健室のイベントを行い、啓発活動を行うとともに、地域住民にアンケートを取り、生の声をまとめた。

・地域にある NPO 法人や市民団体と地域で最期まで暮らすことを自分事として考えていただけるよう、研修会やもしバナゲームを行い、市民への啓発活動や学びの

場を提供した。

・一般社団法人緑の杜企画の偲ぶ会で、地域で看取りをした方たちから、在宅医療や地域での看取りに対する生の声を聞いた。また、『ナーシングカフェほうぷ』のPRを行い、語りの場・相談できる居場所のPRを行った。

3. 活動の成果

- ① 地域にどんな場所がほしいと感じているか、具体的な意見を知ることができた。
- ② 地域住民への啓発活動には、こちらから人が集まる場や出向くことの大切さを学んだ。
- ③ 住民には、安心して自分の話や意見を言える場が必要であると感じた。さらには、高齢者でも元気な人は、自分にできることをして貢献したり、役に立ちたいと考えている。それらができる場が必要だと知った。

4. 今後の課題

- ① 『ナーシングカフェほうぷ』という場を作っても、参加しやすい建物や場の雰囲気重要であり、場所や方法の検討が必要である。
- ② 自力で維持継続するための場所や人材などの資金についての検討が必要である。

5. 活動の成果等の公表予定

日本死の臨床研究会に発表予定